

高等学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	㉑	4		3
問二	㉒	2		各 3 × 2
	㉓	3		
問三	X	1		3
問四	Y	3		3
問五	3			5
問六	近代小説において、世界をある一つの立場から統括し、整合的に語るべきだという理念のもと、誰がどのような立場で語るのかという「資格」が厳しく問われ、人称について小説の中で一貫した視点で世界を描く必要があるという制約。(106字)		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
問七	<p>筆者の述べる「必要に応じて読者と作中世界とをつなぐ「私」とは、小説の場面によって、読者に全体を俯瞰して語って示す三人称的視点をよそおったり、特定の人物に寄り添って読者に情景を報告する一人称的視点をよそおったりすることで、自身が存在しないかのように抑制的にふるまう語り手のことである。</p> <p>この筆者の主張を踏まえると、【資料】における語り手の視点には、場面全体を俯瞰するように語る「三人称的視点」に、下人の視点をよそおい、下人の判断を代弁する「一人称的視点」が隠れていると考えられる。</p> <p>なぜなら【資料】には「幅の広い梯子の中段に、一人の男が、猫のように身をちぢめて、息を殺しながら、上の容子を窺っていた」とある。「息を殺しながら、上の容子を窺っていた」という描写は、下人の様子や動きを俯瞰的に捉える「三人称的視点」から語られていることが分かる。この視点は、筆者の述べる「世界を統括する主体を求める近代小説の要請にも応えようとしている」という主張に当てはまると考えられる。</p> <p>それに対して、【資料】には「この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、どうせ唯の者ではない」とある。文末が「ではない」と断言する表現となっていることから、「どうせ唯の者ではない」と見なした主体は下人であると考えられ、これは下人の「一人称的視点」から語られる描写であると言える。「三人称的視点」から語られる描写であれば、文末は「どうせ唯の者ではないと下人は見た」という、下人の動きを俯瞰的に捉える描写となると考えられる。これらのことから、「この雨の夜に、この羅生門の上で、火をともしているからは、どうせ唯の者ではない」という描写には、下人の視点に立ち、下人の判断を代弁する実況中継者としての役割が隠されており、筆者の述べる「隠れた「私」が自在に立ち回り、伝統的な和文脈の性格を生かし」という主張に当てはまると考えられる。</p>		問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	24
問八	㉔	刊行	語として採点する。	各 2 × 5
	㉕	矛盾		
	㉖	そうせい		
	㉗	へいめい		
	㉘	虚構		

二

64

高等学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答	採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一	4	3	
	問二	3	3	
	問三	4	3	
	問四	A 夜が明けてしまったので	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 2
		B ご出発なさることはできないだろう		
	問五	女の親が易の占いをしていたということ。(19字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
問六	易者であった女の親は、生前、女の様子から金があることがわかると女が使い果たしてしまうと考え、十年後に旅人がやってきた際に、その旅人に貸している金を返してもらうように女に伝えた。十年後にやってきた易者である旅人は、女の親の占った通りに、占いによって女の親の行動の意図を見抜き、金のありかを教えた。このように「易のうら」は物事の成行きを予見するものであると言えるから。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	14	
三	問一	2	3	
	問二	3	3	
	問三	3	4	
	問四	3	4	
	問五	どうして(魚を)獲れないということがあるのでしょうか。(確かに魚は獲れます。)しかし、翌年には魚がいなくなるでしょう。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6
	問六	咎犯の策は、敵を欺くことで勝利に導くというものであった。咎犯の策に対して、雍季は、詐偽の道であり、当面の対策としてはよいが、長久の術ではないと述べた。それを聞いた文公は、雍季を咎犯よりも高い地位に就けることで、目先の事だけではなく、長期的な利益をもたらす策を重視する意志を示そうとしたから。(145字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	14
四	生徒が、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えることができるようにするために、想定する読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で、最もふさわしい根拠の示し方を選択させたり、何を説明するのかに応じて、どのような説明の仕方がふさわしいのかを考えさせたりする。そのようにして考えた根拠の示し方や説明の仕方を自分の考えや伝えたい事柄に合わせて組み合わせ、読み手に間違いなくかつ過不足なく伝わるように記述する学習を行わせることが重要であると考えられる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	12	

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
五	<p>私が、今後、源氏物語を読み進めるにあたって、参考にしたいと考えたのは【資料Ⅰ】である。なぜなら、私は、言葉には文化が表れていると考えるので、紫式部が使った言葉で大半が訳されている【資料Ⅰ】を参考にすることで、紫式部の実際に書いた時の思いや、平安時代の文化にも触れること可能だと考えたからだ。</p> <p>たとえば、【教材】の「つらつき、いとらうたげにて、眉のわたり、うちけぶり、いはけなくかいやりたる額つき、髪ざし、いみじう美し。「ねびゆかむさま、ゆかしき人かな」と目とまり給ふ」の部分が、【資料Ⅰ】では「顔つきがいかにもあどけなく、眉のあたりがほのぼのと匂うようで、振りかかる毛を子供らしく掻きあげてある額つき、髪の場合、非常に美しいのです。大人になって行くさまを見るのが楽しみのようなと、眼をお留になります」とあり、一方、【資料Ⅱ】では、「顔つきが非常にかわいくて、眉のほのかに伸びたところ、子供らしく自然に髪が横撫でになっている額にも髪の本質にも、すぐれた美がひそんでいると見えた。大人になった時を想像して素晴らしい佳人の姿も源氏の君は目に描いてみた。」となっている。</p> <p>この部分をみると、【資料Ⅱ】の方は、主語を補ったり、「ゆかしき」を辞書で出てくる意味以上の解釈を入れたりして、紫式部自身の表現にとどまらず、訳者による登場人物の心情に関する解釈も交えて、記述されているが、【資料Ⅰ】の方が、書き手である紫式部の意図や考えを生かそうという意図で原文に忠実に訳されていると考える。</p> <p>よって、【資料Ⅰ】の方が、原文の味わいを損なわず、作品を鑑賞できると考えるため、私は、【資料Ⅰ】を参考にして読み進めたいと考える。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	50